

第3回富山市市町村合併検証委員会
議事録

日時 令和4年10月20日（木）15:00～17:00
場所 富山市役所 8階大会議室
出席者 下記のとおり

1 開会

2 議事

(1) 合併検証に関するアンケート調査結果（速報）について
事務局から説明

(2) 意見交換

委員

- ・ 回答率（45.4%）について、本アンケートを当初計画した際の見込みはいくらだったのか。

事務局

- ・ 本市が過去に実施した総合計画の市民意識調査と同程度を見込んでいた。それと比較すると今回の45%は高い数字であると認識している。

委員

- ・ 「普段の生活の中で『市町村合併したこと』を意識することはありますか。」と「この1年間で、地域における様々な活動に参加しましたか。」という2つの設問に関する結果は、リンクしていると考えて良いか。

事務局

- ・ 設問が別であるため、特にリンクはしていない。

委員

- ・ 地域別の回答割合について、回答数の合計に対する各地域の割合が示されているが、地域によっては、回答率が極端に低いという誤解を招きかねない表記になってしまっているため、各地域への配布数に対する回答割合を示したほうが良いと思う。

事務局

- ・ ご指摘のとおり、各地域への配布数に対する割合という形で示す。

委員

- ・ 市町村合併したことを「意識しない」（「全く意識することがない」及び「ほとんど意識しない」の合計）、及び地域における様々な活動に「参加しない」（「全く参加していない」及び「時々参加することがある」の合計）と回答した人がいずれも7割近くいるが、これは別の設問において「まちの活気」に関する満足度が低い結果となっていることとリンクしているのではないかと。

事務局

- ・ 今回説明したものはあくまで速報値であるため、まちの活気との関連については今後詳細に分析する。
- ・ 今回説明した市民アンケートの結果は、速報ということで一部のみを示している。詳細な分析はまだできていない状況であり、今後分析を進め、その結果を次回の委員会時にご説明する。

委員長

- ・ これから分析を進めるため、各委員からぜひ分析して欲しいというものがあればお寄せいただきたい。

委員

- ・ 「地域における様々な活動は、市町村合併したことによって何か変化はありましたか。」という設問に対し「わからない」、「ほとんど変化していない」と回答した人が多い結果になったことについて、これが分かっただけでも調査を実施して良かったと思っている。今回の結果を踏まえ、次の分析への展開ができる。
- ・ 各地域の特性についても、旧市町村と新市とでどのような違いや影響があったのか見えるような分析をお願いしたい。また、記述回答の整理もお願いしたい。
- ・ 先ほど委員からご指摘のあった回収割合については、表の横に地域別の回答率を追記すれば、もう少し全体の傾向が見えるのではないかと思う。

委員

- ・ アンケートの問14について、「大いに变化した」、「少し变化した」と回答した人は少数ではあるが、これらの人が問9においてどのようなところに満足または不満を感じているのか、相関関係を分析すると、富山市の施策及びそこに与えるアウトカムが見えてくると思う。

委員

- ・ アンケート調査結果の中で、「ゴミ収集、し尿処理、リサイクルなど生活環境への取り組み」の満足度が最も高いが、それでも50%には達していない。ゴミ収集の有料化に関する議論も始まっている中、この数字は当局として高い数字と認識しているの

か。

- ・ 各地区の収集日以外の休日等に一般の人が資源物等を持ち込める場所があるが、あまり知られていないのが大変残念だと感じており、十分な案内をお願いしたい。

事務局

- ・ ゴミ収集等については、今後各地域においてゴミの減量化施策を進める中で丁寧に説明していきたい。

委員

- ・ 次回の委員会に向けて詳細な分析を進めるとのことだが、結果についてはその時ではなく事前に示すこととし、それに対する意見を文書で返す形にしてはどうか。

委員長

- ・ できるだけ早く提示できるよう心掛ける。また、議論後もしばらくは各委員からの意見、要望があれば受け付けるよう配慮したい。アンケートの結果については報告書とは別に進めているため、早めに提示できるよう工夫したい。

(3) 「富山市の合併」の検証について

事務局から説明

委員長

- ・ 総括部分については、アンケート調査の結果がまだ確定していないため、現段階での素案を示している。各委員からご意見を伺う。

(4) 意見交換

委員

- ・ 中止した事業に関する理由が表の後に記載されているが、総括として表の前に記載したほうが分かりやすいのではないかと。
- ・ 合併検証の総括部分の内容について、まちの活力がなくなっているように見えてしまうため、「富山市の活力あるまちづくり」が見える言葉で最後を締めくくると未来が見えて良いのではないかと。

委員長

- ・ 中止した事業の状況については記載したとおりであるが、例えば自分が住む地区で中止された事業の経緯や不明点があればご教示いただきたい。当事者でないと分からない各地域の事情があると思うので、本検証の中で疑問点があれば出してほし

い。

委員

- ・ 上下水道の整備、特に水道料金の統一化について、老朽化に対する更新や人口減少問題がある中で地域間格差が解消されたことは、合併の効果の一つであると感じている。また、生活保護の級地制度についても、旧富山市の級地区分に統一されたことは同様に合併の効果であると思う。これらは政策効果を期待して計画されたと思うが、その効果がアウトプット、アウトカムとして顕著に出ているということをもう少しアピールしても良いと思う。
- ・ スポーツ施設をはじめとした公共建築物の重複や老朽化の問題はどこの自治体でも同様に抱えているが、アンケートの結果として、施設を「利用していない」や「わからない」と答えた人が一定数いることから、地域ごとに分析して今後の統廃合や更新に役立ててほしい。

委員

- ・ 新市建設計画について、中止になった部分の理由についても明確になったが、今後それらを細かく検証しても意味はないと思う。
- ・ 富山市において、どの地域に住んでいても同質に幸せを感じられるようになれば良いと思う。アンケート結果の分析を進めていくと見えてくる部分でもあると思うため、次回に向けしっかりまとめていただきたい。特に交通政策について、富山市はLRTの導入等によるコンパクトシティ政策を進めてきた。成功しているとは思いますが、元々中山間地に近いところまでそのネットワークを伸ばす計画があり、実証実験も行った。それを再度検討することは、中山間地に住む人々が幸せを感じることにつながるのではないか。まちなかに環状線を作ったように、人口が集中しているエリアにLRT網を伸ばすような計画を作っていくべきだと思う。そうすれば、市全域でウェルビーイングが上がっていくと思う。

委員

- ・ コミュニティバスが運行されている地域では、便数が減って非常に不便になったという声がある。利用者が少ないため便数が減らされるのは仕方ないのかもしれないが、今後行政と連携して検討していきたい事項である。

事務局

- ・ 路面電車の延伸等については、一部技術的な問題があり、実現するためにはその進展を待たなければならない状況である。また、メーカーに対してヒアリングを行う等、協議を進めている状況である。
- ・ コミュニティバス（地域自主運行バス）について、事業は運営主体が実施することとなっており、本市はそれに対して支援を行うという形をとっている。

委員

- ・ 消防分遣所の設置や学校の耐震工事、大規模改修等が実施され、合併の大きな効果を実感している一方、見直しや廃止した事業については、もう少し理由や原因を丁寧に説明する必要があると思う。
- ・ 最寄りの窓口が中核型地区センターとなった地域は不便に感じているのではないかと。中心部と周辺部の格差増大や、住民の声が届きにくくなるという問題も実際に出ている。生活の中で公共物に関する問題が起こった際、従来は庁内でコミュニケーションをとりながらオールマイティに対応してもらっていたが、今はそういった声が届きにくいと感じることがある。
- ・ 今年に入り中山間地域で実施しているシビックテック事業やスマホでの買い物事業などで効果が出ることを期待している。

委員

- ・ 基幹的サービスである上下水道を、合併時の一番安価なラインで統一し、かつ安全性を確保しながらその水準を維持してきたことはまさしく合併の効果であり、大変な努力をしてきたことと思う。一方、老朽化施設の更新や人口減少地域での事業継続などは全国の自治体が悩んでいる課題であり、これらのサービスを維持しているということはある意味モデルケースになり得る内容ではないかと思う。

委員

- ・ 中止した事業をはじめ、事業の全件について、各地域の一覧を作成してほしい。
- ・ 効率的な行政運営を行うために合併したと思うが、一部地域では役場がなくなり、将来学校がなくなると住民と行政の繋がりが薄くなり、いずれは住民同士の繋がりが薄くなる。住民はただ住んでいるだけで市の政策には興味がないように感じられるため、地域が衰退を防ぐためにも、より行政と住民が一体となって進めていかなければならない。
- ・ 農業政策に一貫性がなく、農家が翻弄されている。中山間地域に対して平地と同じ基準を押し付けられ、農地に対する財産意識や営農意識が薄くなり、離農する人が増えている。また、農機具や肥料の高騰、イノシシ対策への費用負担増、農業補助金の削減により、営農の継続意欲が衰退してきている。これらに対して、市全体として中山間地域の実情を組み合わせ検証してほしい。

委員

- ・ 中学校の新築や小学校の移転改築、校舎増築等、教育環境について重点的に対応いただいた点が良かった。
- ・ 市道の拡幅に6年かけてまだ終わっていない箇所がある。効率化も含め、対応の仕方を改善しながら、各地域におけるハードソフト両面の環境が良くなるような対応を期待したい。

委員

- ・ 地域住民にとって最も嬉しいことは、近くに総合行政センターや地区センターがあることであり、住民の身近に行政があって安心できることが一番重要である。資料に「小さなまちづくりとそれを結ぶ基盤整備・ネットワーク化は着実に進展した。」とあるが、これがさらに深まり、広まっていくことを期待したい。
- ・ 自治振興会における一番のもどかしさは、コロナ禍において町内会あるいは自治振興会単位で何も活動ができなかったことである。アンケートにもあった「活動に参加していない」という結果はこれが原因でもあると思う。コロナが収束していれば、アンケート結果に地域住民の直接的な声により反映されたのではないかと思うと大変悔しい。

委員長

- ・ コロナの影響が出るのは仕方のないことであり、今回の結果はそれを割り引いて考える必要があるかもしれない。

事務局

- ・ 市道の整備については、他の地域からも類似のご意見をいただいている。限られた予算の中で少しずつ進めているのが現状であり、着実に進めていきたいと考えているため、引き続きご理解とご協力を賜りたい。

委員

- ・ 総括中の「予想以上に扶助費が伸びた」という記載について、これは福祉制度が充実したからだと思うが、生活保護の水準を旧富山市に合わせたことが最大の成果であるかのような表現が気になった。サービス水準をどのように維持向上させるか、また富山市のどこに住んでも同質のサービスが受けられるようにすることが大きな課題の一つであったと思うが、それらは水道料金や下水道使用料の例からもサービスの平準化が成功していると思う。生活保護のことだけが最大の成果とも取れる書き方ではなく、サービス水準を平準化して、どこでも同水準のサービスが受けられるという目的が達成されたという記載にしてはどうか。

委員長

- ・ 生活保護だけではなく「健康福祉サービスの充実」に係るところであり、誤解のある表現を避けるよう改める。

委員

- ・ 今回医療や介護の分野についてかなり具体的に書かれ、一般市民にとっても非常に分かりやすい記載になったと思う。合併して良かったと思える根拠について、財政的に膨らんでいる原因が扶助費であっても、それが自分たちへのサービスに繋がってい

るということが納得しやすい。

- ・ 生活課題は年々個別化、複雑化していると思うが、それに対応するために必要なのはやはり地区センターを中心とした小さなコミュニティであり、また複雑化に対応できる高度な専門性を持った中核的な機関である。それらのネットワークがいかにスムーズに働くかが、何気なく暮らしている一人一人の安心に繋がるのだと思う。
- ・ 扶助費に関するスケールメリットについては、合併したことで財政力が強化され、安定したサービスが提供できることがメリットだと捉えていた。それに対するデメリットは、例えば小さい村や町であれば独創的なアイデアが簡単に出せるものも、スケールが大きくなって抱える人口が増えるとそう簡単にはできないことではないかと思う。ただ、富山市は交通政策等の魅力的、独創的な施策に取り組んでいるため、市民が何気なく安心して暮らせることをいかに支えているか、ということを加えても良いかもしれない。未来を予測、期待させるような言葉が入っていると良いと思う。

事務局

- ・ アンケート調査の分析結果も踏まえ、総括部分については別途検討したい。

委員長

- ・ 扶助費と税収のスケールメリットについて、実際は扶助費にもスケールメリットとデメリットがある。単純に人口規模を大きくし、人口密度を高くすれば良いわけではない。小さなまちづくりを含めてしっかりマネージしていくことが重要で、その点で富山市は市全体として多様性を持っていると言えるため、これを上手く活かすまちづくりを進めていく必要がある。合併後のまちづくりの中で結果的に上手くいったものもあれば、失ってきたものもあるため、適切に書くべきであると考えている。

3 閉会

以 上

富山市市町村合併検証委員会委員名簿

16名

| No | 区分 | 氏名 | 役職 | 備考 |
|----|--------|--------|------------------------------|---------|
| 1 | 委員長 | 辻 琢也 | 一橋大学大学院法学研究科 教授 | |
| 2 | 副委員長 | 中村 和之 | 富山大学 副学長 | 10/20欠席 |
| 3 | 委員 | 石動 瑞代 | 富山短期大学 幼児教育学科 教授 | |
| 4 | 委員 | 尾畑 納子 | 富山国際大学 名誉教授 | |
| 5 | 委員 | 久保田 善明 | 富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授 | 10/20欠席 |
| 6 | 委員 | 高木 繁雄 | 富山商工会議所 会頭 | 10/20欠席 |
| 7 | 委員 | 高城 繁 | 富山市社会福祉協議会 会長 | |
| 8 | 委員 | 高橋 明 | 日本政策投資銀行地域調査部 部長 | |
| 9 | 委員 | 宮口 侗迪 | 早稲田大学 名誉教授 | 10/20欠席 |
| 10 | 委員 | 北岡 勝 | 富山市自治振興連絡協議会 会長 | |
| 11 | 委員 | 長澤 邦男 | 大沢野地域自治振興連絡協議会 会長 | 10/20欠席 |
| 12 | 委員 | 山森 潔 | 大山地域自治振興会連合会 会長 | |
| 13 | 委員 | 中井 義則 | 八尾地域自治振興連合会 会長 | |
| 14 | 委員 | 茗原 勉 | 婦中地域自治振興連絡協議会 会長 | |
| 15 | 委員 | 山田 憲彰 | 山田地域自治振興会 会長 | |
| 16 | 委員 | 江尻 裕亮 | 細入自治会連合会 会長 | |
| | オブザーバー | 滑川 哲宏 | 富山県地方創生局市町村支援課 課長 | |